

編集後記

都合により、一二五号予定の末広編集分を、繰り上げて一
二四号としてお届け致します。

論説には、県史編さん班の若い二人に寄稿頂きました。巻
頭の小泊論文は、石造美術品と金石文を利用して、庶民の信
仰内容がどのように変遷したかをたどった野心作です。すで
に、独自の研究領域と研究方法をもって、大分県の古代・中
世文化史研究に一石を投じつつある氏の研究が、さらなる展
開をとげ、結実を迎えるよう期待します。石垣論文は、卒業
論文で収集した資料の一部を利用して、豊後高田市民の買物
行動を分析した、本誌上では数少ない地誌の論文です。今
後、社会人としての新しい資料の収集を前提とした、大分県
の現状分析が緒につくよう期待します。

研究ノート以下の各文章は、大分県近現代史をながめてい
る中で、ぜひともほしいテーマばかりですが、中島氏（『大
分県史』近代篇Ⅱ「社会教育」執筆者）・垣本氏（垣本言雄
の二男）・宮瀬氏（芸振会議発足時、大分合同新聞社文化部
長）という最適任者に御執筆頂きました。会報の後藤氏、も
ちろんです。

いよいよ春本番、会員の皆様方の御研究が、着実に進展し
ますよう、お祈り致します。

（末広記）

昭和六十二年三月二十五日 印刷
昭和六十二年三月三十日 発行

大分県地方史 第二二四号

編集者 末 広 利 人

発行者 渡 辺 澄 夫

印刷者 中 尾 寿 孝

別府市中央町九一五

印刷所 日の丸印刷株式会社

（電話 〇〇三四一）

発行所

〒八七〇一一 大分市旦ノ原七〇〇

大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会

（振替・下関八一五二九四番）